

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490200052		
法人名	社会福祉法人 みやぎ会		
事業所名	グループホーム きたかみ	ユニット名	
所在地	石巻市北上町橋浦字大須234		
自己評価作成日	平成 26年 11月 25日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成26年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度より、利用者様と共に食材の買出しに行く機会を多く作りたくと考え取り組んでいます。隣町の大型スーパーや町内の商店へ買い物に行っております。普段ユニットで生活している様子とはまた別の表情や声が聞かれ、利用者様に満足して頂いていると感じております。また、職員もその姿を見て仕事に対し充実感を感じております。今後も継続していきたいと思っております。
震災後より東京の学生(高校生)ボランティアの方と交流を深めております。夏には夏祭りのお手伝いや踊りを披露して頂きました。孫・ひ孫の年代の方と交流をする事で、利用者様も大変喜ばれております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地元商店への買い物外出を加えたことで入居者の表情も豊かさを増している。隣接の特養所 所属看護師との連携で健康管理面が充実したことを職員は実感し、その人らしくとの事業所理念を大切にケアにあたっている。地域とのつきあい、運営推進会議、市との連携等では地域密着型事業の立場を踏まえて、連携充実に努めている。安全面では昨年3月に現在地に移り住んで以降、夜間想定避難訓練は図上訓練1回のみで、地域住民が実践面で参加する訓練に至っていないことから、災害対策の充実を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所:グループホーム きたかみ)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人のグループ理念・ユニットの理念を共有し、毎日にケアで実践している。	法人が掲げる「その人らしい暮らしの実現」とは別に、事業所は「その人らしく」をモットーに5項目からなる基本理念を掲げ、夫々の入居者に合ったケアを重視し実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の商店へ買い物に行く機会を増やしている。また、施設行事の際は近所の住宅へチラシを配布し、近所の子供達との交流をはかっている。今年の夏祭りは不参加だった。	特養・デイと合同で企画した夏祭りでは近所に招待のチラシ入れを行い、地域住民・入居者・他施設の利用者が一緒に楽しんだ。近所の商店への買物外出、地元歌手の定期的慰問など地域との付き合いは深まっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症・介護について理解できていない地域の方々が多く、推進会議の際質問に返答する事で少しずつ認知症について理解頂いていると感じる			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の方より町内で行われる行事等を教えていただいている。今年の敬老会は参加できませんでした。	市職員・地域包括・区長等の委員構成で、ホームから活動内容・行事予定・入居者動向等の報告、委員側も地域行事、キャラバンメイト等の情報提供がなされ、有益な会議となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の方と関わることも多いので、円滑なコミュニケーションを心がけ、良い関係づくりに努めている。	市には入居者の経済状況等について相談している。また、橋浦地区の避難・防災や高齢者福祉等の行政施策にも協力する立場で臨んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	体動が多く転倒のリスクが高く危険な方、離設の可能性が考えられる利用者様がいる。職員の負担が多くなるが、利用者様の立場になって考え拘束をしないという方向で取り組んでいる。	入居者の立場に立って何が嫌で何が身体拘束となるかについて、職員は月例のケア会議等で話し合っている。多動や離設傾向のある方には要因の把握に努めている。車椅子を使わないケアの方法を共有し、統一対応するケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の立場になって考える事を常に意識しているため、虐待という行為はない。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用している方はいないが、今後必要になる事も考えられる。その時の為にもしっかり知識を身につけておく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様が理解・納得されているか確認しながら進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望がきかれた際は、その訴えに答えられる様に職員で話し合い、より良いサービス向上に反映させる。	家族訪問の機会に意向を聞き、反映に努めている。いつまでも歩けるようにとの家族の希望はケアプランにも盛り込んだ。主治医に相談して服薬量減らしを試み、ADLの改善で排泄の自立化が進んだ例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は色々な意見を出してくれている。月1回のケア会議で話合っている。急ぎの場合は、その日の出勤者で検討している。	職員の発案で近所の商店への買い物外出を加えたことで地域との付き合いが深まり、入居者の表情にも明るさが出て来た。生活記録の様式変更も、職員意見で改善が図られた例である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人1人と面談をする機会を作りたいと考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は参加できているが、外部研修には1部(新人)の職員しか参加していない。他事業所の職員との交流等も大事だと思うので、今後は全職員が参加する様にしたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	4月に管理者が変更となり、これまで多数の研修に参加する機会があり、他事業所の管理者の方と交流を持つ事が出来た。管理者自身、勉強不足な点もある為、ネットワークを活用し自施設のサービスの質の向上に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションの際、表情・傾聴の姿勢など話しやすい雰囲気作りに配慮し、安心していただける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	しっかり傾聴し、不安や困っている事を相談しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様の思いを聞き取り見極めて支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割活動の後、感謝の気持ちを伝えて共に支え合って生活している事を感じてもらえる様支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、本人様の状態を詳しく報告。また、不穏時などは家族様の協力が有効になるので、協力をしていただく様、良い関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コミュニケーションの際、1人1人の地元の話題に触れる様にしている。隣接している特養に、町内の方も多く利用しており、知人・友人等の面会の支援を行っている。	特養やデイに知人がいる方には面会訪問に同行している。遠方の身内への電話、新たな入居者には職歴や居住歴に関わる会話から馴染みの人や場を探し出している。馴染みとの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自分から積極的に話をされない方や入居間もまく環境に馴染めていない方には、特に会話支援をし関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何か相談などあれば、対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の聞き取りの際、本人様の思いをしっかり傾聴している。	入居時の面談、利用していたデイとの対応、入居後の接遇等を通して入居者の意向の把握に努めている。職員を孫の名で呼んだり、家に行きたいと頼まれた外出がヒントとなって、思いや意向を掴んだ例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	聞き取り後、職員へ申し送り入居しても今までの暮らしが継続できる様に対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り・生活記録で日々の状態をみんなで共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のケア会議・申し送りを通して状況を把握し計画立てている。また家族様へ本人様の好み、生活について確認している。	申し送りやケア会議を個別計画見直し等に繋げている。帰宅願望や不穏時の対応、義歯が合わず痛がる場合は柔らかか目の食事に変える等、履歴をさかのぼって支援方法を探す事も行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を詳しく記入する様にしている。行動や言葉から利用者様の思いをくみ取れる。変化やアイデアがあった場合は職員全員で周知している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々生まれるニーズを把握し、できるだけ早めに対応する様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の機関を利用し、馴染みの関係を作り安全な暮らしの支援をする。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際、利用者様の状態を詳しく主治医へ報告している。	定期の通院は家族が同行、症状変化時は職員同行か往診を依頼している。同行者にはホームが入居者の状態を伝えているが、的確な情報提供の下で診察となる様、医療面の記録書類整備をお願いしたい。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接している特養の看護職員に協力して頂いている。体調変化や介護の視点からでは判断しかねない場合など、その都度報告し指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の経過についてこまめに連絡を取り、状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは行ってなく、入居時にも説明をしている。重度化・終末期になっても利用者様の居場所を確保するよう、努めている。	状態が著しく悪化した時は退居も…との事業所が示した条件を納得し入居契約を結んでいる。昨年秋、目標に掲げた重度化や終末期対応のホームで出来るサービス範囲を明記した説明書作りが未達成である。	ホームが行う重度化や終末期対応の説明書整備を進めると共に、入居後の本人や家族等のホームに求める要望への対応について、検討を加えることをお願いしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習会を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	特養・デイサービス合同の避難訓練を年2回実施している。グループホーム単独の避難訓練も行っております。非常食の準備もしている。	避難訓練は隣接の特養・デイと合同及びホーム単独で年2回行っている。しかし昨年3月に現在地にホームが移った後は、夜間想定での避難訓練は、昨年春に図上訓練を行ったに止まっている。	夜間想定での避難訓練を実践すると共に、昨年6月に設置された特養ホームの「きたかみ災害協力隊」の活動対象に出来ないかも含め、近隣住民参加の災害対策実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失礼のない様な声がけに注意している。特にトイレ誘導に関しては他者に知られたくない部分であるので羞恥心に配慮して対応している。	失礼のない声掛けに努めており、呼び方は名前にさん付けで行っている。トイレへの誘導は誇りを傷つけたり羞恥心を抱かせることのないよう、全員に声掛けする手順を踏んで誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	完結にわかりやすい言葉で会話し本人様の思いを傾聴している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には自由に過ごして頂いているが午前中の体操・レクに関してはなるべく参加して頂く様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自力で更衣される方に対しては声がけ・チェックしている。外出の際はおしゃれな服を着ていただくなどして気分転換も兼ねている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用したり利用者様と一緒に料理本をみて食べたい物をメニューに取り入れている。夏にはホームで育てた野菜を食べました。できる方には簡単な調理・食器拭き等行って頂いている。	料理本を囲んで談笑があり、本人希望で南瓜の煮付けやはっと料理が誕生日の食卓を飾る。畑での野菜作りと収穫、大型店での買い物や通院後に外食等、食事と外出を絡め入居者に喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量チェックを毎日行っている。飲み込みが悪くなってきている方が増えており、1人1人に合った食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア行っている。口腔内にトラブルがみられた際は歯科受診・往診にて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失礼にならないトイレ誘導の声がけ。介助の方には排泄時間を把握し対応している。失禁の不快感がない様努めている。	職員は入居者の排泄パターンに熟知し、トイレ誘導は羞恥心を抱かせないように皆に声掛けしている。汚れたパッド処理用として居室にバケツを置いて、自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は不眠・不穏にも影響があるので乳製品を毎日提供している。排便チェックし、便秘がひどい方は主治医へ相談、内服薬でも対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴を希望している利用者様もあり、出来るだけ希望通り入浴支援している。	毎日入浴を希望する方の意向を叶えると共に、衛生面や不眠対策として2日に1回は入浴、足湯の実施や入浴剤使用等を行っている。入浴後スポーツドリンク希望にも応えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠の方に対し、入床前の足浴を実施している。眠りやすい環境(温度・光など)にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった際は記録と口頭での申し送りを確実にしている。カルテに処方箋を綴じ、全員が薬の内容を把握できる様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お茶いれ・食器拭き・調理の下ごしらえなど毎日行っている。食事が楽しみのものであるので、誕生日の日にはその方好きなメニューを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	不足食材の購入と一緒に外出。また、買い物が必要になった時は状況をみて外出支援している。	2～3カ月に1度は外出の機会を作り、上品の郷や佐沼のスーパーへの外出、食材購入、近所の商店への買い物、隣接のデイに出向いて一緒にリハビリ体操等を行っている。天気の良い日は敷地内を散歩している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の現金はこちらで預っている。個人的に必要なになった物品は預かり金で購入。本人様の了解を得て職員が購入したり、可能な方は一緒に外出し購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	頻りに手紙を送って下さる家族様があり、利用者様は大変喜ばれている。不穏・不安になった時は家族様に連絡し直接話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花やボランティアの方から頂いた飾りを飾り、季節を感じられる環境作りをしている。	震災支援の方々の慰問でいただいた染め物や女兒の着物が飾られ、華やかさを醸し出している。食卓の他、テレビ鑑賞用ソファ、廊下にある縁台等くつろぎ方のニーズに応えようと工夫が施されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごす事が習慣になっている方はホームでも主に居室で過ごされている。体操・食事の時間にはホールに来るなどし、自由にされている。座席に関しては、利用者様同士ぶつかってしまう事もある為、状況に合わせ座替えをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真・思い出の写真を飾る方が多くみられる。また、テレビ・衣類ケースなど使い慣れた物を持ち込み安心して生活できる環境作りをしている。	使い慣れた家具等の持ち込み、家族や思い出深い写真の飾り付け等、個性的な居室である。転倒の危険がある方の居室はマット・角にクッションの貼り付け、布団を敷き等、安全対策を講じている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要と思われる箇所に手摺りを設置するなど、危険な場所の把握に努め、安全に生活していただける様、日々心掛けている。		